

氏名	添田 啓子	部署	看護学科・看護学専修	職名	教授
研究分野	小児看護学				
学位	博士(看護学)				
学歴	1980年聖路加看護大学看護学部、1992年聖路加看護大学大学院研究科(博士前期課程看護学専攻)、2005年兵庫県立看護大学大学院看護学研究科博士後期課程。				
経歴	1986年聖路加看護大学助手、1993年埼玉県立衛生短期大学看護学科講師、1999年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師、2005年同助教授、2008年同教授。				
所属学会(役職)	日本小児看護学会(理事(診療報酬担当)、評議員、専任査読者)、日本小児保健協会、看護科学学会、				

【2018年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	該当なし				
2					
3					
(2) 論文					
1	中堅看護師が仕事を継続するための「いきいき」測定尺度作成の試み	共著	日本看護学会論文集 看護管理49号、211-214	中込 洋美, 横山 恵子, 添田 啓子, 延原 弘章	2019.02
2	長期入院中の子どものセルフケア・親のケア能力の獲得プロセスとそれに対する看護師の関わり	共著	保健医療福祉科学、8、10-16	○櫻井育穂、望月浩江、長谷美智子、添田 啓子	2019.3
3					
(3) 学会発表					
1	オレムセルフケア不足理論を取り入れた看護過程の検討～記録監査表を用いた看護過程研修前後の看護師の認識の変化～	共著	日本小児看護学会第28回学術集会、名古屋	○長場美紀、田村佳士枝、添田 啓子、櫻井育穂、望月浩江、他6名	2018.7
2	テーマセッション、2018こどもセルフケアカンファレンス～こどもの力を引き出す看護を創り出そう～ 第4弾	共著	日本小児看護学会第28回学術集会、名古屋	片田範子、及川郁子、加藤令子、勝田仁美、添田 啓子、中野綾美他	2018.7
3	テーマセッション、平成30年度診療報酬改定は小児看護にどのような影響を与えるか。 ～人生100 年時代を見据えた社会の実現に向けた取り組み～	共著	日本小児看護学会第28回学術集会、名古屋	添田 啓子、日沼千尋、西田志穂、梶原厚子、古谷佳由理、櫻井育穂	2018.7
(4) その他					
1	看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標	共著	日本看護系大学協議会教区評価検討委員会	小山真理子、内布敦子、江川幸二、大野かおり、亀井智子、北川真理子、佐々木幾美、添田 啓子、高橋真理、田中恵美子、服部智子、安田貴恵子、柳田俊彦	2018.6.
2	特集【「面」で支える子どもの暮らし-看護職はいかに連携することができるのか】 「面」で支える看護職を育てる仕掛け 日本小児看護学会の「人材養成研修プログラム」	共著	訪問看護と介護、23(9)、662-663	奈良間 美保(日本小児看護学会)、添田 啓子、及川 郁子、勝田 仁美	2018.09
3					

2. 競争的資金等の研究			
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	子どものセルフケア能力・親のケア能力獲得を支援する看護師の教育指導力の発展、添田啓子(代表)、研究分担者	平成28年度～平成30年度
2	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A)	オレムのセルフケア理論を基盤としたこどもセルフケア理論の構築、片田範子(代表)	平成26年度～平成30年度
3			
3. 教育業績			
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
(1) 講義			
1	大学院博士前期課程看護学専修看護理論	前期	学生が自らの看護実践を振り返り、臨床で使われる看護理論について学び、理論を用いて実際に事例分析を行う。学生が理論を使った事例分析を行い、自己の看護と理論を結び付けて使えるように工夫している。
2	大学院博士前期課程「保健医療福祉研究法特論」の質的研究法	前期6月	保健医療福祉の質的研究法について、その特徴、適する研究課題、研究方法について概説した。データ収集方法インタビューと分析の演習をグループで行った。また、文献抄読を行った
3	大学院博士前期課程「小児看護援助論」	前期	小児看護の様々な現象を理解する上で重要となる理論や研究の動向を学ぶ授業をゼミ形式で行った。子どものボディイメージの発達・病気認知、ストレスコーピング、こどもの権利とプレパレーションなど。また、オレムセルフケア不足看護理論の小児看護への適用について学び、それらをふまえて小児と親・家族の健康に対する援助法を検討した。
4	看護学科1年次小児看護学Ⅰ総論	後期	小児看護学の総論として、小児看護の目的・対象・方法、こどもをめぐる社会の現状、小児看護の根拠法令、こどもと家族、こどもの権利擁護、こどもの成長発達と発達評価、こどもの健康課題、予防接種等について、講義とワークシートを用いたアクティブラーニングの手法を取り入れて授業した。
5	ヒューマンケア論	前期	科目担当者として、学生の学習が有効に進むように授業を運営し、非常勤講師やゲストスピーカーの対応、レポート評価等を行った。
(2) 演習			
1	大学院博士前期課程「看護学演習小児看護(一般)」	後期	小児看護学領域の研究文献の検討と研究課題の明確化、研究方法の確定を指導し、学生は研究計画を作成した。
2	学部看護学専門科目 こどもと家族のヘルスプロモーション	前期	地域の様々な場や病院と在宅をつなぐ部門で、多様な健康状態にある子どもと家族の健康課題・ニーズについて理解し、ニーズに対応し健康を促進する看護について学ぶ。新しい演習としてグループワークと隣地の専門家へのインタビュー、学んだことを発表する演習を構築、実施した。学生は主体的に学び、好評であった。
3	学部看護学専門科目 小児看護学Ⅲ	後期	PBLチュートリアルで、事例の対象理解と発達像・健康像・生活像の把握、全体像の把握、回復を促す看護の方向性の検討を行った。事例は、口唇口蓋裂の乳児、喘息の幼児、川崎病の幼児であった。
4	学部看護学専門科目 小児看護学Ⅳ	前期	小児看護学Ⅲで学んだ事例を用いて、小児看護に必要な技術演習を行った。演習で習得した知識・技術・態度を確認するため、技術テストを実施、学生の個別評価を行った。
(3) 実習			
1	博士前期看護学専修 小児実践看護実習Ⅲ	前期5月～後期2月	小児看護専門看護師の役割を実践し、部署の改善を実施する。学生は、依頼を受けて、部署とコンサルティの課題にを分る軽視、コンサルテーションを行った。コンサルテーションの結果コンサルティの課題解決を支援することができた。学生は実践した内容を分析、評価、レポートした。
2	小児看護学実習	後期8月、11-12月	子どもの病気・障害や療養の状況に合わせて、生命力の消耗を最小限にし、健康に向けて生活過程を整える看護を実践する。また、子どもとともに子どもの療養を支える家族も看護の対象ととらえ支援する。これらの実践を通して子どもの対象特性を理解し、子どもの看護に必要な知識・技術・態度を修得する。
3	総合実習	前期7月	既習の知識やこれまでの看護実践を踏まえて、看護学における自己の学習課題について看護活動を通して探求し、専門職者に求められる総合的な看護実践能力を身につける。添田は小児看護領域の総合実習の運営と学生カンファレンス、報告会に関わった。
4	IPW実習	後期10月	IPW実習の目的に応じて、4年次学生5名を指導した。

(4)論文指導				
1	Effectiveness of role-play in hazard prediction training for nursing students: a randomized controlled trial 看護学生が行う危険予知トレーニングにおける ロールプレイ使用の効果の検証:無作為化比較対照試験	大学院博士後期課程(H29.4-H31.3)	佐藤安代(博士)	
2	大学院博士後期課程 論文副指導	通年	中堅看護師が「いきいき」働くための研修プログラムの開発。	
3	大学院博士前期課程 研究指導	通年	「長期入院をしているこどものきょうだいへの支援—アセスメントと介入における看護師の思考過程に焦点をあてて—」研究計画書の作成と倫理申請	
4	大学院博士前期課程 研究指導	通年	出生後すぐに手術を要する先天性心疾患をもつ子どもの父親の思い	
5	卒業研究論文	学部(H30.4-H31.1.)	子ども医療電話相談(#8000)の利用状況と親が求めるニーズについての検討	
(5)その他				
1	大学院学生の質的研究ゼミの主催	通年	大学院博士前期課程の学生の質的研究ゼミを主催し、指導した。月1回。	
2				
3				
4. 社会貢献活動				
(1)講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	看護学生実習指導者講習会	埼玉県看護協会	小児看護学実習の展開	2018.6.26.
2	ラダーレベルⅢ対象者研修	埼玉石心会病院	オレムセルフケア不足看護理論を使って看護を見直そう!	2018.9.11.
3	平成30年度 第3回養護教諭・看護教員合同研修会	埼玉県教育局特別支援教育課	「養護教諭と看護教員の協働について」	2018.12.26.
4	日本小児看護学会理事会企画30周年記念事業人材養成PR研修	日本小児看護学会	地域で暮らす医療的ケア児を支援する看護師を増やそう!	2019.1.12.神戸、 2019.2.9.東京
5	オレム推進会議、全体ワークショップ	埼玉県小児医療センター	オレム推進連絡会議での事例検討会・活動推進会議(8回)、部署ごと活動の発表と全体への講評	2019.2.22.
6	研究推進セミナー	埼玉県立大学研究開発センター	臨床実践をよりよくする研究の発展に向けて—実践と研究のコラボレーション	2019.3.23.
(2)国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期	
1	一般社団法人日本看護系大学協議会	教育評価検討委員会委員	2016.8.22-2018.6.、 2018.7-2020.6.	
2	一般社団法人日本小児看護学会	理事 診療報酬検討委員会担当	2017.6-2019.6.	
3	一般社団法人日本小児看護学会	評議員	2017.6.-2021.6.	
4	一般社団法人日本小児看護学会	専任査読者	2014.9-2018.8. 2018.9-2022.8.	
5	一般社団法人日本小児看護学会	人材養成ワーキンググループ、小児看護実践基盤グループリーダー	2018.8.-2019.5.	
6	埼玉県教職員採用課	教員採用選考試験第2次試験員	2018.8.	
7	埼玉県越谷特別支援学校	学校評議員	2018	
(3)ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
2				
3				
5. 学内運営(委員会委員)				
1	大学院入試委員会委員			
2	20周年記念誌編集委員会			
3				

6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		